

青葉区

ねことの暮らし ガイドライン



平成14年2月

青 葉 区

青葉区ねことの暮らしガイドライン

【制定目的】

青葉区では人の生活環境や、都市近郊としての自然環境が近年に大きく変化したため、犬に比べ自由に飼育されてきた猫が引き起こす糞尿被害・器物損壊・繁殖等が、住民相互のトラブルや地域の生活環境汚染の問題として表面化してきました。また今後、緑豊かな青葉区の野生生物生態系に影響が出ることも憂慮しなければなりません。

そこで青葉区では、区民意識調査・生息数実態調査などを基に猫による生活環境問題や住民紛争を解決へと導き、また自然環境の保全に配慮するため、人と猫との関わり方についてあるべき姿をガイドラインとしてここに制定しました。

【ガイドライン概略】

現状での問題とは...

人との関わりの中で問題を起こしている猫は「のら猫」または「そと猫」(【定義】参照)であり、人がそれらの猫に対し、責任の所在を曖昧にしたままで関わっていること(例えばエサを与えるのみ)が問題を誘発しています。

そこで、ガイドラインで進める問題解決の方法とは...

「のら猫」については無責任なエサやりではなく、それ以上に増えないような繁殖制限の実施、排泄管理など、その生活改善の推進に人が関わっていくことにより「街の嫌われもの」から「街の人に好かれる猫」へ、さらに新しい飼い主を探し「飼い猫」という新たな姿へ生まれ変わらせ、「のら猫」としての数の減少を図ります。

「そと猫」については、誤解されていることの多い猫の習性について、「飼い主に」正しい知識を啓発し、併せて近隣への配慮や猫自身の健康管理、また事故防止のためにも、都市部で適している「屋内飼育」を、普及させていきます。

また、そと猫と野生生物との関係への配慮も併せて進めます。

【定義】

のら猫：エサは人に依存する(定期的にもらう・ゴミをあさる等)が、その他の生活全般(排泄・繁殖・健康)については人に管理されていない状態の猫

人里離れたところに住み、野生鳥獣を食す等でエサを自活し、その生活環が人の生活環境に抵触しない猫と、街中にいる「のら猫」とは区別します。

青葉区区民意識調査より

人や社会にとって猫の価値は？

精神的な安らぎを与えてくれる
存在 67%

猫による我慢できない被害は？

糞尿とその臭い 68%
繁殖期の鳴き声 40.8%
敷地等への侵入 34.9%

のら猫は人が管理すべきか？

すべきである 79%

のら猫の現状

生活状況や健康管理の状態が悪い上に、年に数回ある繁殖期には数が増えるので、地域でのトラブルになりやすい。飼い猫と違い、責任の所在も曖昧なため、問題解決が難しい。

そと猫の現状

のら猫と同じく、糞尿等でトラブルになりやすい。また、多くの「そと猫」が首輪を付けていない為、飼い主以外には、のら猫との区別がつかない。

うち猫の現状

屋内から出たことがない完全屋内飼育猫が多い。また、排泄・爪とぎ等を屋内で済ませた後、首輪をつけて短時間の散歩に出ても、飼い主がはっきり分かる「うち猫」はトラブルになりにくい。

飼い猫：飼い主と居住場所が明確であり、人から飼養管理を受けている猫

そと猫：生活のほとんどを屋外で過ごし、飼い主によってエサや繁殖等の管理がある程度はなされているが、排泄の管理や病気予防等は放任されている場合が多い猫

うち猫：生活のほとんどを屋内で過ごし、繁殖制限・病気予防や、排泄等の生活面まで、すべてにおいて人の飼養管理下にある猫

飼い主：特定の猫を常時、自宅で世話をし、かつ全ての飼養管理責任を負う者

キャットメイト（のら猫生活改善支援者）：自己所有地内など周辺住民から了承が得られる場所で定期的に猫の世話をし、かつ猫の行動範囲周辺の環境整備を行う者。

キャットメイトはこのガイドラインに従い繁殖制限・健康管理など「のら猫」の生活改善を推進し、地域での保護者となるように努め、飼い主に準じた管理責任を負うこととする。

自分の楽しみや一時的な感情で、見かける「のら猫」にエサを与えるだけという行為は地域の人にとっても、結果的には猫にとっても迷惑となります。エサを与えるのであれば、キャットメイトとして活動しましょう。

【猫の飼い主が守るべきこと！

～そと猫からうち猫へ・屋内飼育の推奨～】

- ◆ 猫の本能・習性について正確で詳しい知識を持つこと。
(5～6ページ参照)
- ◆ 猫の世話(エサ・排泄・爪とぎ・被毛の手入れ・遊び)は
屋内で行うこと。

<住環境>

- * なるべく屋内から出さないように飼いましょう。住居に工夫をすれば、猫は屋内のみの生活で充分満足できます。
- * 平面を駆ける犬と違って、猫の運動には高い場所へ飛び上がったり、降りたりする動きが必要です。
家具の配置に段差をつける等の工夫をしましょう。

<排泄>

- * トイレは毎日清掃し、排泄物の量や状態を観察しましょう。
- * 猫が設置したトイレで上手に排泄できないようであれば、設置場所やトイレ容器の深さ、大きさなどを変えてみたり、容器に敷くトイレ砂の素材も他の物を試してみるなどして、飼い猫が好んで使用する快適なトイレを見つけましょう。

<被毛の手入れ>

- * 被毛の手入れは屋内で行い、毛が飛散しないようにしてゴミとしてまとめて捨てましょう。

そと猫をうち猫にするには！！

屋外で暮らしていた成猫を「うち猫」にすると、慣れ親しんだ今までのテリトリー(縄張り・行動範囲・生活空間)を求めて、必死で外へ出たがります。これは猫が生活環境の急激な変化を嫌う性質をもつため、屋内より外の方が暮らしやすいからというわけではありません。猫の強固な要望に負けて、一度だけでも外へ出せば、新しい環境(屋内)にはなかなか慣れてくれないでしょう。

屋内を新しいテリトリーとして慣れさせるには時間(1ヶ月位)がかかりますが、何歳からであっても「うち猫」になることはできますので、猫との根比べに負けないでください。

< 識別 >

- * 屋内から出さずに飼育している場合(完全屋内飼育)でも、逃げて迷子になってしまった時のために、必ず連絡先を書いた首輪や迷子札等をつけて、飼い猫であることを明確にしましょう。

< 同居 >

- * 完全屋内飼育の場合、猫は同居人と遊ぶことも好みますが、住環境に応じて複数(2～3頭)の猫を飼っていれば、猫同士で一緒に遊んだり、運動したり出来るので、ストレスが軽減されるでしょう。

◆ 繁殖制限・病気予防(特にワクチンで防止できる伝染病)

寄生虫(ノミ・ダニ・回虫等)駆除等の健康管理を行いましょう。

- * 完全屋内飼育でも、繁殖制限の手術を行うことによって、オス、メスともに鳴き声やスプレーといった発情期特有の行動(5ページ参照)を防止することができ、屋内での飼育がし易くなります。老年期に起こりやすい生殖器に関連する病気も予防できるので、健康管理面でも有効です。

【キャットメイトが守るべきこと！

～ のら猫の生活改善のために ～ 】

◆ 猫の本能・習性について正確で詳しい知識を持つこと。(5～6ページ参照)

◆ 猫の生活について責任を持って世話をすること。

エサと排泄の管理は必ずすること。

< エサ場 >

- * エサは周辺住民の理解が得られる場所で、時間を決めて(例えば生ゴミの収集時間前等)与え、その時間に現れない猫には決して置きエサをしないこと。
- * 洗浄が容易な容器に、世話をしている猫が食べきれだけの量のエサを入れて与えること。
- * 猫が食べ終わったら容器を片づけ、周辺の清掃を行い、衛生管理に気をつけましょう。

< 排泄 >

- * キャットメイトの自宅の庭や所有地内など、キャットメイトが使用・管理することができ、周辺住民の理解が得られる場所に猫の排泄場所を設置し、そこで排泄を行うように仕向けること。なるべく近隣住民の庭などに排泄をさせないよう、排泄場所の設置方法やトイレ容器の数などを、実情にあわせて工夫しましょう。
- * 排泄場所は常に清潔に保ち、排泄物の片づけは頻繁に行うこと。

- * 排泄場所以外に排泄された糞についても広い範囲で点検し、糞以外の汚物も併せて積極的に片づけ、猫の生活周辺地域の環境美化に配慮すること。

何故、置きエサがいけないの？

猫の為に置いたエサを食べに、他の動物がエサ場に現れることがあります。置きエサを食べることで他の動物種が増えすぎると、自然の生態系バランスが崩れ、別種生物の生存が脅かされることがあります。また増えすぎたことで、駆除の対象になるかもしれません。猫などの愛玩動物と他の動物との間で互いに病気がうつる危険性もあります。もちろん、エサが腐敗するまで放置されれば悪臭で近所迷惑となるばかりか、ハエ・ゴキブリなどの害虫発生の原因ともなり、猫の生活場所一帯が不衛生な環境となってしまいます。

< 識別 >

- * 世話をしている猫には首輪・名札等を装着し、誰が見てもすぐ判別できるようにすること。
- * 個々の猫の状態(性別・年齢・病歴・不妊去勢・寝床の場所・エサとトイレの場所)などを細かく把握し、誰がみても分かるよう定期的に記録をつけましょう。

◆ 猫がその地域で生活することについて、周辺住民の理解を得ること。

- * 1人で何頭もの「のら猫」を世話することは、肉体的にも精神的にも限界があります。活動を継続するためには、地域で協力者を探すなどしてグループをつくり、役割分担を上手に行なって、孤立しないようにしましょう。
- * グループの活動は、その代表者を決めて地域の代表者(自治会等)や行政・応援組織等の他機関と連絡を密にし、積極的に活動への理解・協力を求めながら実践していきましょう。
- * 猫が生活している周辺の住民には猫の世話をしていることや、面倒を見ている猫の数、識別方法、健康状態(< 識別 > 参照)などを具体的に説明しましょう。
- * キャットメイトの連絡先等、責任の所在を明確にしておきましょう。

◆ 繁殖制限・病気予防(特にワクチンで防止できる伝染病)・寄生虫(ノミ・ダニ・回虫等)駆除等の健康管理は協力機関と相談しながら、適切な時期に実施すること。

- * 繁殖制限は生後6ヶ月までには(5ページ参照)、オス・メスともに必ず行うこと。
- * 個体識別をしっかりとし、寄生虫や伝染病の感染などに気をつけて健康管理を行うこと。
- * ワクチンで予防できる病気については、その予防を心がけること。

◆ 「うち猫」として飼養してもらえる新しい飼い主を捜す努力をすること。

【猫の世話をする前に！ ～知っておきたいこと～】

近隣住民への配慮 ～猫を介した人との関係～

猫は人の言葉を話せません。人間社会のマナーやルールを理解させることも出来ません。猫の本能的な行動が、人間社会では迷惑となることもあります。世話をする人が猫の代わりとなって、近所の方とはいつも気持ちよく挨拶を交わしたり、猫の行動が迷惑をかけた時には謝ることが大切です。

問題が起きた時に「私が知らないところで勝手にやった」と突き放されてしまった猫は、人と関わる社会で生きていくことが難しくなってしまいます。世話をする時には、猫の保護者のつもりで責任を持つように心がけましょう。

また、地域の中にはどうしても猫が好きになれない人や、動物のアレルギーで猫を避けなければならない人もいます。世話をする立場の人たちが、猫に接することの出来ない人へ十分な配慮をすることが必要です。

猫の本当の姿を知っていますか？(成長・本能・習性)

猫の成長

生後3週間ごろ(人間の1歳ごろにあたります。)

目が開き、乳歯が生えてきます。離乳が始まり、自力で立ちあがり遊び始めます。

生後1～2ヶ月

親・兄弟猫や人間等、他の動物と遊びながら接触することで、つきあい方を学びます。トイレのしつけや健康診断、一回目の予防ワクチン接種に適した時期です。

生後3ヶ月ごろ

二回目のワクチン接種時期です。また、そろそろ親猫から離しても大丈夫です。

生後4～5ヶ月(人間の9歳ごろ)

乳歯から、永久歯に生え代わり始めます。不妊去勢手術を施すのに最適な時期です。

生後6ヶ月ごろ

メスには最初の発情が来ます。発情したメスは落ち着きがなくなり、大声で鳴きながら歩き回り始めます。栄養状態が良くなった現在では、メスは老猫となるまで年に3～4回の発情を繰り返します。

オスはメスの発情の匂いに誘発されて発情します。オスが発情すると、スプレー行動(臭い尿をスプレー状に吹き付けてまわるマーキング行為)を始めたり、行動範囲を広げて歩き回り、テリトリーやメス猫を巡って他のオスに喧嘩を仕掛けたりします。このオスの発情行動(特にスプレー)は一度行なうと習慣化しやすく、発情期以外でもみられることがあります。

猫は交尾排卵動物(右記参照)なので、交尾をすればほぼ100%妊娠してしまいます。

最初の発情を迎える前に、不妊去勢手術を行えば、妊娠の危険性が減るだけでなく、上記のような発情行動を抑えることが出来ます。また、迷子や接触による伝染病を防ぐ意味でも有効です。

生後6～12ヶ月(人間の10～18歳ごろ)

肉体的に成猫と変わらなくなります。

生後7年～10年(人間の40～50歳後半ごろ)

中年～老年期にさしかかり老化が始まります。関節が硬くなり、柔軟性が失われます。身体の器官に負担がかかり易くなります。痴呆の症状が出ることもあります。定期的な健康診断や、消化の良い食べ物、適度な温度調整などで長生きが出来ます。

猫の本能・習性

猫は自然界では単独で狩猟を行う動物種であるため、飼い猫となっても野生の習性のなごりがあります。

夜行性

夜間に活動が活発になります。現代の猫は夜寝ることも多く、真の夜行性動物ではありません。

猫の妊娠システムについて

交尾排卵動物とは、交尾が刺激となってメスの排卵が促され、受胎する動物です。また、メスは発情すると複数のオスと何度も交尾を重ねます。このため妊娠する可能性は非常に高いと言えます。

妊娠期間は63日前後です。メスは1回の妊娠で平均4～6頭の子猫を産み、授乳中であっても発情することがあるため、交尾の機会さえあれば年2～3回の頻度で妊娠します。雌猫は出産の度に疲労を重ねるので、毎年続ければ寿命は確実に短くなります。

排泄

自身のにおいが獲物に気付かれないように、糞尿を一定の場所に埋める性質があります。排泄場所としては落ち着ける軟らかい土、砂利等の掘れる所を好むので、個々の好みを把握すれば、トイレのしつけは容易です。標準的な大人の猫で1日3回程度の排泄をします。

毛づくろい

身体のおいを取るためや、精神のリラックス等のために全身の毛をよく舐めます。飲み込んだ毛はお腹の中で毛玉になってしまうので、自分で草を食べて刺激し、吐き戻しをすることがあります。

爪とぎ

爪の新陳代謝を図るほか、気分が高揚したり嬉しい時、指の臭腺をこする時にも行います。その時の気分で様々な素材、角度、場所で爪を研ぎたがることがあります。

狩猟

ネズミ、小鳥、昆虫のような細かい動きをするものに飛びかかり、くわえたり爪でひっかけたりします。狩りをして餌をとる必要が無くても、遊びとしてこういった動きをすることでストレス発散や運動になります。

猫をしつけることはできますか？

猫はよく学習する賢い動物です。猫が嫌がる刺激(音や臭い)と報酬(好みのエサや遊び)を人間が上手に使うことで、猫にも様々なしつけが可能です。ただ、犬のようにリーダーに従う性質はないので、飼い主が出す命令に従って行動させるのは無理があります。

【猫は屋内飼育にとっても適しています！】

「猫は家の中に閉じこめて飼うと、ストレスが溜まる」「犬は人につき、猫は家につく」等とされることがあります。猫は本来、野外で単独生活をする動物なので仲間との社会性(つきあい)に乏しく、ましてや完全に人になつくことはなく、その住宅内で飼育・管理される生活は好まないし、無理があると考えられているようですが、はたして本当でしょうか？

確かに自然界での猫は、単独で獲物を待ち伏せする狩猟方法をとります。同じ地域にライバルがたくさん居れば、限られている獲物の狩猟が難しくなるので、個々の猫は自分だけのテリトリー(生活範囲・狩猟範囲)を命がけで確保し、テリトリー内に他の猫が侵入してくるのを許しません。

つまりその状況では、他の猫と同じテリトリーを共有したり、仲間と協力して生活を営むことは、まず見られません。

しかし自然界から離れ、狩猟の必要が無くなれば、猫たちの社会性は柔軟な変化を見せます。

「のら猫」のように町に住み食料が豊富で、奪い合わなくても済む場合には、猫たちは血縁に関係なく数頭で集い、同じ場所を共有して生活を行うようになります。このような集団となった猫たちは、寝場所さえ重ならなければ、日常でむやみにテリトリー争いをすることはなく、同じ場所でエサを食べ、互いに協力して子育てをしたり、毛づくろいをしあったりして仲間と固有の社会を築きます。

飼い猫の場合は、飼い主とも仲間としての良好な関係を築く事になります。特に、温度変化の少ない屋内で、気のあった仲間(他の猫や人間)がいて、豊富な食料とお気に入りの寝場所が保たれ、外からの侵入者に怯えることもなく、不妊去勢手術を受けて発情とも無関係に過ごせるならば、そこは猫にとって一生を気の向くまま、自由に過ごすことのできる最適の環境となるでしょう。

青葉福祉保健センター生活衛生課

045 (978)2465 ~ 2466

〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町31-4